

シラバス

鍼灸学科 昼間部

1 年次

履正社国際医療スポーツ専門学校

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	2	単位
科目名	栄養学1			講師名		下村有佳里		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		基礎分野		
講義目的	栄養を基礎から理解し、幅広い年代、様々な状況におかれている対象者の食生活について考えることを目的とする							
到達目標	世の中にあふれる栄養の知識を正誤を判断し、対象者にとって必要な情報を提供できるようにすること。							
回数	講義計画							
第1回	オリエンテーション・基礎・応用栄養学について							
第2回	栄養素とその働き①							
第3回	栄養素とその働き②							
第4回	栄養素とその働き③							
第5回	栄養素とその働き④							
第6回	栄養素とその働き⑤							
第7回	小テスト・解説							
第8回	課題発表							
第9回	ライフステージ別栄養(子供)							
第10回	ライフステージ別栄養(成人・妊婦・高齢期)							
第11回	水の働き							
第12回	栄養の消化と吸収							
第13回	小テスト・解説							
第14回	課題発表							
第15回	総まとめ・評価試験							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	講談社 栄養科学シリーズNEXT 運動・スポーツ栄養学第4版							
参考文献	講談社 栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学第6版							
評価基準	評価試験60% 発表・レポート等40%							
履修上の注意	課題発表ではプレゼンテーションを実施するので、対応できるようにしておきましょう。							
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	栄養学2			講師名	下村有佳里	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を学ぶ。					
到達目標	栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解できる。また、健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。					
回数	講義計画					
第1回	スポーツ・健康と栄養素					
第2回	エネルギー代謝					
第3回	栄養素の摂取方法					
第4回	スポーツ選手の食事摂取基準と栄養ケア					
第5回	シーズン別スポーツ選手の食事					
第6回	ライフスタイル別スポーツ選手の食事					
第7回	スポーツ選手の身体づくり					
第8回	障害予防と栄養					
第9回	熱中症予防と水分補給					
第10回	エクササイズガイド・食事バランスガイド					
第11回	スポーツ・健康とサプリメント					
第12回	生活習慣病予防のための運動と栄養					
第13回	スポーツ選手の献立作成 身体づくり					
第14回	スポーツ選手の献立作成 試合期					
第15回	スポーツ選手の献立作成 減量期・ジュニア期					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	健康・スポーツ科学シリーズ6 スポーツ・健康栄養学 化学同人					
参考文献	コンディショニングのスポーツ栄養学 市村出版 健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 朝倉書店					
評価基準	期末試験と提出物、平常評価から成績評価を行います。 期末試験の受験には、授業時間数の2/3以上の出席が必要です。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	アスレティックトレーナー学1			講師名	尾形 秀明	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業およびトレーナーとしてトレーニングやコーチングを指導					
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	トレーニングの基礎、テーピングやビジョントレーニングなどスポーツ選手をサポートするために現場で必要な技術・知識を講義、実技を通して学ぶ。					
到達目標	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているのかを映像や画像などを駆使して理解できる。また、テーピングやマッサージコンディショニングなどの技術を身につけている。					
回数	講義計画					
第1回	トレーナーとは					
第2回	アスレティックトレーニング基礎Ⅰ					
第3回	テーピング 上肢1					
第4回	アスレティックトレーニング基礎Ⅱ					
第5回	テーピング 上肢2					
第6回	ビジョントレーニング1					
第7回	テーピング 下肢1					
第8回	ビジョントレーニング2					
第9回	テーピング 下肢2					
第10回	運動能力					
第11回	テーピング 体幹1					
第12回	バランス					
第13回	テーピング 体幹2					
第14回	柔軟性					
第15回	テーピング 応用1					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	ストレングストレーニング &コンディショニング NSCA決定版 NSCA スポーツ指導者のためのコンディショニングの基礎知識 山本 利春					
参考文献						
評価基準	出席率、実技試験・筆記試験					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	2	単位
科目名	解剖学1（総論・体表解剖）			講師名		清行 康邦		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。							
到達目標	得られた知識を自らの頭の中で統合し、再び人体に再構築するというような視点から人体を理解し、他の基礎分野、臨床分野の教科を学ぶ上での基礎を養う。							
回数	講義計画							
第1回	細胞の構造							
第2回	細胞の構造							
第3回	細胞の構造							
第4回	組織							
第5回	組織							
第6回	組織							
第7回	組織							
第8回	人体の構成と方向							
第9回	神経について							
第10回	中枢神経系							
第11回	中枢神経系							
第12回	中枢神経系							
第13回	中枢神経系							
第14回	脳の血管							
第15回	伝導路							
第16回	評価（到達度の確認）							
テキスト	「解剖学」 医歯薬出版							
参考文献								
評価基準	出席率、筆記試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）で評価する。							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	解剖学2(骨学)			講師名		梅井 善史		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	鍼灸治療をする上でもっとも重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その付着部である骨を理解する。							
到達目標	骨各部の種類、名称、関節の種類が理解できるようになる。							
回数	講義計画							
第1回	オリエンテーション 運動器系総論							
第2回	骨の形状、骨の連結、関節の種類、上肢帯の骨							
第3回	脊柱の構成、基本形態、連結、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨							
第4回	脊柱の構成、基本形態、連結、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、まとめ							
第5回	胸郭、肋骨、上肢帯							
第6回	自由上肢の骨							
第7回	上肢の関節							
第8回	下肢帯の骨							
第9回	自由下肢の骨							
第10回	下肢の関節							
第11回	上肢・下肢のまとめ							
第12回	頭蓋骨(頭蓋(脳頭蓋、顔面頭蓋))							
第13回	頭蓋(上下顎骨、口蓋骨、舌骨)、頭部の関節、顎関節							
第14回	頭蓋(上下顎骨、口蓋骨、舌骨)、頭部の関節、顎関節							
第15回	全体のまとめ、総復習							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	東洋療法学校協会編 解剖学							
参考文献	イラスト解剖学							
評価基準	出席は2/3以上出席(出席日数が足りないものは評価は無し) 期末試験において評価する							
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に行うが必ずテキストは準備しておくこと							
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	解剖学3(筋学)			講師名		梅井 善史		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門基礎分野		
講義目的	鍼灸治療をする上で重要な筋肉の走行、作用、支配神経などを理解する。							
到達目標	筋の走行、名称、作用、起始・停止、支配神経が理解できるようになる。							
回数	講義計画							
第1回	オリエンテーション 筋総論							
第2回	筋の形状、筋の種類							
第3回	関節の種類、上肢帯の筋							
第4回	自由上肢の筋							
第5回	上肢の筋など まとめ							
第6回	下肢帯の筋							
第7回	自由下肢の筋							
第8回	下肢の筋など まとめ							
第9回	背部、体幹の筋							
第10回	背部、体幹の筋							
第11回	胸郭、肋骨の筋							
第12回	頭部の筋(顔面筋)							
第13回	頭部の筋(側頭筋など)							
第14回	頭部の筋(側頭筋など)							
第15回	全体のまとめ							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	東洋療法学校協会編 解剖学							
参考文献	イラスト解剖学							
評価基準	出席は2/3以上出席(出席日数が足りないものは評価は無し) 期末試験において評価する							
履修上の注意	色鉛筆または色ペンを持参							
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学4(脈管)			講師名	深尾 敦郎	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	循環の概要、血管の構造、心臓、動脈系、静脈系、胎児循環、リンパ系について学ぶ。					
到達目標	身体の構造を体系化して理解することにより、臨床医学を科学的に理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	循環器系(脈管学)とはどのような学問か					
第2回	血管系(体循環と肺循環)					
第3回	血管系(血管の構造、吻合、門脈と怪網)					
第4回	心臓(位置、心膜、壁、心房と心室、弁膜)					
第5回	心臓(刺激伝導系、血管)					
第6回	動脈系(肺循環、体循環－大静脈)					
第7回	動脈系(体循環－頭部、上肢)					
第8回	動脈系(体循環－腹部)					
第9回	動脈系(体循環－下肢)					
第10回	まとめ					
第11回	静脈系(肺循環、体循環－頭部)					
第12回	静脈系(体循環－奇静脈、上肢、下肢、門脈)					
第13回	胎児循環					
第14回	リンパ系(リンパ管)					
第15回	リンパ系(リンパ系の器官)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編 解剖学					
参考文献	中外医学社 解剖学イラスト辞典					
評価基準	小テスト、期末試験の成績で評価					
履修上の注意	授業時間の2/3以上の出席が必要					
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学5(内臓)			講師名	深尾 敦郎	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系について学ぶ。					
到達目標	身体の構造を体系化して理解することにより、臨床医学を科学的に理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	呼吸器系(鼻腔、咽頭、喉頭)					
第2回	呼吸器系(気管、肺)					
第3回	消化器系(基本構造、口腔)					
第4回	消化器系(咽頭、食道、胃)					
第5回	消化器系(小腸)					
第6回	消化器系(大腸)					
第7回	消化器系(肝臓、胆嚢)					
第8回	消化器系(膵臓、腹膜)					
第9回	まとめ					
第10回	泌尿器系(腎臓)					
第11回	泌尿器系(尿路)					
第12回	生殖器系(男性生殖器)					
第13回	生殖器系(女性生殖器)					
第14回	生殖器系(受精と発生)					
第15回	内分泌系(下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編 解剖学					
参考文献	中外医学社 解剖学イラスト辞典					
評価基準	小テスト、期末試験の成績で評価					
履修上の注意	授業時間の2/3以上の出席が必要					
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学6(神経・感覚系)			講師名	清行 康邦	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	解剖学1で学んだ知識に加え、末梢神経系を中心にさらに神経系の知識を身につける。					
到達目標	得られた知識を自らの頭の中で統合し、再び人体に再構築するというような視点から人体を理解し、他の基礎分野、臨床分野の教科を学ぶ上での基礎を養う。					
回数	講義計画					
第1回	脳神経					
第2回	脳神経					
第3回	脳神経					
第4回	脳神経					
第5回	脊髄神経節					
第6回	自律神経					
第7回	自律神経					
第8回	感覚器					
第9回	感覚器					
第10回	感覚器					
第11回	感覚器					
第12回	体幹の神経					
第13回	上肢の神経					
第14回	下肢の神経					
第15回	まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	「解剖学」 医歯薬出版					
参考文献						
評価基準	出席率、筆記試験(小テスト、中間テスト、期末テスト)で評価する。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学1			講師名	西村 展幸	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	生命の基本単位である“細胞”の働き、体液の組成や分類、物質の移動について学ぶ。また、中枢神経系の機能さらには内臓を調節する自律神経の働きを交感神経系・副交感神経系を対応させながら学ぶ。					
到達目標	人体の正常な機能のうち「神経・運動器(筋)・感覚」などについての生理学現象を理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	生理学の基礎 細胞					
第2回	生理学の基礎 体液					
第3回	神経 ニューロンの構造と働き					
第4回	神経 静止電位、活動電位					
第5回	神経 興奮の伝導、シナプス伝達					
第6回	神経 神経伝達物質、受容体					
第7回	神経 中枢神経の機能					
第8回	神経 脊髄の機能					
第9回	神経 脳幹、間脳の機能					
第10回	神経 小脳、大脳基底核、大脳辺縁系の機能					
第11回	神経 新皮質の機能、脳脊髄液					
第12回	神経 末梢神経系の分類・機能					
第13回	神経 自律神経系の概要、交感神経系					
第14回	神経 副交感神経系、自律神経調節の特徴					
第15回	神経 神経伝達物質と受容体、自律神経反射					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編:「生理学」:医師薬出版					
参考文献	大野忠雄 他 共訳:「トートラ 人体の構造と機能」:丸善株式会社 ※その他、実際に本文や図などをみて、理解しやすいものを選んで下さい。					
評価基準	小テストおよび期末試験から成績評価を行う。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	生理学2			講師名		西村 展幸		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期		分野	専門基礎分野		
講義目的	筋肉の構造と収縮の仕組みや運動調節について学ぶ。 さらに、感覚の生理学的意義や一般的な感覚受容のメカニズムについて学ぶ。							
到達目標	人体の正常な機能のうち「神経・運動器(筋)・感覚」などについての生理学現象を理解できる。							
回数	講義計画							
第1回	筋 骨格筋の構造と働き							
第2回	筋 筋収縮の仕組み							
第3回	筋 筋のエネルギー供給の仕組み							
第4回	筋 心筋・平滑筋の特徴							
第5回	運動 骨格筋の支配神経、筋紡錘と腱受容器							
第6回	運動 脊髄レベルでの運動調節							
第7回	運動 脊髄レベルでの運動調節							
第8回	運動 脳幹・小脳・大脳基底核による運動調節							
第9回	運動 大脳皮質による運動調節、錐体路と錐体外路							
第10回	感覚 感覚の一般							
第11回	感覚 体性感覚、内臓感覚							
第12回	感覚 痛覚							
第13回	感覚 味覚、嗅覚							
第14回	感覚 聴覚、平衡覚							
第15回	感覚 視覚							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	東洋療法学校協会編:「生理学」:医師薬出版							
参考文献	大野忠雄 他 共訳:「トートラ 人体の構造と機能」:丸善株式会社 ※その他、実際に本文や図などをみて、理解しやすいものを選んで下さい。							
評価基準	小テストおよび期末試験から成績評価を行う。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要。							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学3			講師名	相棟 大輔	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	循環系、呼吸系、消化器系の仕組みを学ぶ。					
到達目標	生理学の基礎を十分理解し、臨床科目や臨床実習に対応できる力を身につける。					
回数	講義計画					
第1回	循環 血液の組成と働き					
第2回	循環 止血					
第3回	循環 線維素溶解					
第4回	循環 血液型					
第5回	循環 心臓血管系					
第6回	循環 心臓の構造と働き					
第7回	循環 血液循環					
第8回	循環 循環調節					
第9回	循環 リンパ系					
第10回	呼吸 呼吸器					
第11回	呼吸 換気とガス交換					
第12回	呼吸 呼吸運動とその調節					
第13回	消化と吸収 消化と吸収、消化管の運動					
第14回	消化と吸収 消化液、吸収					
第15回	消化と吸収 肝臓の働き、摂食の調節					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編:「生理学」:医師薬出版					
参考文献	大野忠雄 他 共訳:「トートラ 人体の構造と機能」:丸善株式会社 ※その他、実際に本文や図などをみて、理解しやすいものを選んで下さい。					
評価基準	小テストおよび期末試験から成績評価を行う。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学4			講師名	相棟 大輔	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	代謝系、泌尿器系、内分泌系や免疫系について学ぶ。					
到達目標	生理学の基礎を十分理解し、臨床科目や臨床実習に対応できる力を身につける。					
回数	講義計画					
第1回	代謝 食品と栄養素、代謝					
第2回	代謝 各栄養素の働きと代謝					
第3回	体温 体温調節、体温の産生と放散					
第4回	体温 発汗とその調節、体温調節の障害					
第5回	排泄 腎臓の働き、腎循環					
第6回	排泄 尿産生					
第7回	排泄 腎臓と体液の調節、畜尿と排尿					
第8回	内分泌 ホルモンの特徴					
第9回	内分泌 ホルモンの種類とその働き					
第10回	内分泌 ホルモンの種類とその働き					
第11回	生殖 生殖、妊娠と出産					
第12回	成長と老化 成長、老化					
第13回	生体の防御機構 生体の防御機構					
第14回	生体の防御機構 免疫反応					
第15回	身体活動の協調					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編:「生理学」:医師薬出版					
参考文献	大野忠雄 他 共訳:「トートラ 人体の構造と機能」:丸善株式会社 ※その他、実際に本文や図などをみて、理解しやすいものを選んで下さい。					
評価基準	小テストおよび期末試験から成績評価を行う。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	衛生学・公衆衛生学1			講師名	桑原 理恵	
				実務経験	○	
実務内容	クリニックにてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	衛生学・公衆衛生学の意義、健康、ライフスタイルと健康、さらに環境と健康について学ぶ。					
到達目標	衛生・公衆衛生学の理論や疫学の方法論を踏まえたうえで、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病予防のあり方などについて理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	衛生学の意義とその活動					
第2回	健康					
第3回	健康管理					
第4回	衛生行政					
第5回	社会保障と医療制度					
第6回	ライフスタイルと健康					
第7回	食品と疾病					
第8回	食中毒					
第9回	運動と健康					
第10回	環境と健康					
第11回	環境と健康					
第12回	廃棄物の処理					
第13回	産業保健					
第14回	精神保健					
第15回	医療従事者として社会をみる					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編:「衛生学・公衆衛生学」:医歯薬出版					
参考文献	授業での配布プリント等					
評価基準	課題および学期末筆記試験によって評価					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	衛生学・公衆衛生学2			講師名		相棟 大輔		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学ぶ。							
到達目標	公衆衛生の各領域の仕組みや課題について理解できる。							
回数	講義計画							
第1回	医療倫理 善行の原則							
第2回	医療倫理 守秘義務							
第3回	産業保健							
第4回	精神保健							
第5回	精神保健							
第6回	母子保健							
第7回	成人・高齢者保健							
第8回	成人・高齢者保健							
第9回	感染症とその対策							
第10回	感染症とその対策							
第11回	消毒法							
第12回	疫学							
第13回	保健統計							
第14回	保健統計							
第15回	まとめ							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	東洋療法学校協会編:「衛生学・公衆衛生学」:医歯薬出版							
参考文献	授業での配布プリント等							
評価基準	期末試験と小テスト(授業において実施、6割以下は評価減点対象)の成績から評価							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	医療概論			講師名	桑原 理恵	
				実務経験	○	
実務内容	クリニックにてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	医学の歴史、医療制度、医療倫理、医療に関する時事問題について学ぶ。					
到達目標	医療に関する幅広い知識と共に、自ら考え、判断する力を養い、医療人として独り立ちできるよう、精神面、知識面での基礎力が身についている。また医療に関するニュースなどを意識する習慣が身についている。					
回数	講義計画					
第1回	西洋医学の歴史					
第2回	西洋医学の歴史					
第3回	中国医学の歴史・日本の医学の歴史					
第4回	現代医療の課題					
第5回	現代の医療制度：医療従事者					
第6回	現代の医療制度：我が国の医療制度					
第7回	現代の医療制度：医療保険制度					
第8回	現代の医療制度：介護保険制度					
第9回	演習					
第10回	医療倫理					
第11回	守秘義務・パターナリズム					
第12回	インフォームドコンセント					
第13回	患者の権利：安楽死、延命治療など					
第14回	QOL、脳死、臓器移植など					
第15回	医療従事者として社会をみる					
第16回	評価（到達度の確認）					
テキスト	東洋療法学校協会編：「医療概論」：医歯薬出版					
参考文献	授業での配布プリント等					
評価基準	課題および学期末筆記試験によって評価					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	社会保障制度・職業倫理			講師名		古田 高征		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野		専門基礎分野		
講義目的	医療システム、保険制度ならびに教育現場など鍼灸師を取り巻く現状について学ぶ。							
到達目標	鍼灸業界や医療の中における鍼灸師の役割について理解できる。							
回数	講義計画							
第1回	西洋医学と東洋医学(中医学)について							
第2回	健康保険							
第3回	同意書							
第4回	医療過誤の実際							
第5回	盲学校の現状							
第6回	鍼灸師とは							
第7回	医療の中における鍼灸師の役割							
第8回	医療資格							
第9回	評価試験							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト								
参考文献								
評価基準	レポート、期末試験の成績を元に評価を行う。 授業は2／3以上の出席が必要。							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	東洋医学概論1			講師名	日開 美月	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸整骨院にてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	鍼灸治療を行う上で欠かせない東洋思想を中心とした基礎理論、東洋医学の人体の考え方を学ぶ。					
到達目標	鍼灸治療を行う上で最も基礎となる東洋医学の基礎理論、人体に対しての考え方、疾病観、診断論を理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	基礎理論 東洋医学の起源と発展					
第2回	基礎理論 陰陽五行論(陰陽学説)					
第3回	基礎理論 陰陽五行論(五行学説)					
第4回	基礎理論 陰陽五行論(五行学説)					
第5回	基礎理論 陰陽五行論(五行学説)					
第6回	東洋医学の人体の考え方 気血津液					
第7回	東洋医学の人体の考え方 気血津液					
第8回	東洋医学の人体の考え方 五臓六腑(心)					
第9回	東洋医学の人体の考え方 五臓六腑(肝脾)					
第10回	東洋医学の人体の考え方 五臓六腑(肺腎)					
第11回	東洋医学の人体の考え方 五臓六腑(六腑・奇恒)					
第12回	東洋医学の人体の考え方 臓腑経絡論					
第13回	東洋医学の疾病観 病因論(概要、外因)					
第14回	東洋医学の疾病観 病因論(外因)					
第15回	東洋医学の疾病観 病因論(内因、不内外因)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋医学概論:医道の日本社					
参考文献						
評価基準	・ 中間試験、期末試験の成績を元に評価を行う。 ・ 授業は2／3以上の出席が必要。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	東洋医学概論2			講師名	日開 美月	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸整骨院にてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	鍼灸治療に直接関わる東洋医学の疾病観と診断論の問診まで学ぶ。					
到達目標	鍼灸治療を行う上で最も基礎となる東洋医学の基礎理論、人体に対しての考え方、疾病観、診断論を理解できる。					
回数	講義計画					
第1回	東洋医学の疾病観 病理と病証（八綱病証）					
第2回	東洋医学の疾病観 病理と病証（気の病理病証）					
第3回	東洋医学の疾病観 病理と病証（血・津液の病理病証）					
第4回	東洋医学の疾病観 病理と病証（心）					
第5回	東洋医学の疾病観 病理と病証（肝・脾）					
第6回	東洋医学の疾病観 病理と病証（肺・腎）					
第7回	東洋医学の疾病観 病理と病証（六腑の病証）					
第8回	東洋医学の疾病観 病理と病証（経絡・奇経八脈の病証）					
第9回	東洋医学の疾病観 病理と病証（六経病証）					
第10回	東洋医学の疾病観 病理と病証（代表的な疾病）					
第11回	診断論 四診 診断の一般、望診					
第12回	診断論 四診 望診					
第13回	診断論 四診 聞診					
第14回	診断論 四診 問診（汗、飲食）					
第15回	診断論 四診 問診（二便、疼痛）					
第16回	評価（到達度の確認）					
テキスト	東洋医学概論：医道の日本社					
参考文献						
評価基準	・ 中間試験、期末試験の成績を元に評価を行う。 ・ 授業は2／3以上の出席が必要。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	経絡経穴概論1			講師名	加藤 春那	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	流注、骨度法ならびに督脈～足の少陰腎経の経穴について学ぶ。					
到達目標	・経絡名を全て漢字で書ける。 ・要穴の意味が説明できる。 ・督脈～手の厥陰心包経の経穴の位置が理解できる					
回数	講義計画					
第1回	総論					
第2回	督脈					
第3回	任脈					
第4回	手の太陰肺経					
第5回	手の陽明大腸経					
第6回	足の陽明胃経					
第7回	足の陽明胃経					
第8回	足の太陰脾経					
第9回	手の少陰心経					
第10回	手の太陽小腸経					
第11回	足の太陽膀胱経					
第12回	足の太陽膀胱経					
第13回	足の太陽膀胱経					
第14回	足の少陰腎経					
第15回	手の厥陰心包経					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	東洋療法学校協会編:「経絡経穴概論」： 医道の日本社					
参考文献	「ツボ単」:形井秀一、高橋研一監修:(株)NTS 「鍼灸学 経穴編」:東亜出版					
評価基準	期末試験と平常評価から成績評価を行う。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	経絡経穴概論2			講師名		加藤 春那		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期	分野		専門分野		
講義目的	流注、骨度法ならびに督脈～足の少陰腎経の経穴について実技を通して学ぶ。							
到達目標	・骨度法で身体各部の長さが言える。 ・手の少陽三焦経～足の厥陰肝経の経穴の位置が取穴できる。 ・各経絡の要穴を示すことができる。							
回数	講義計画							
第1回	手の少陽三焦経							
第2回	足の少陽胆経							
第3回	足の少陽胆経							
第4回	足の厥陰肝経							
第5回	督脈							
第6回	任脈							
第7回	手の太陰肺経・手の陽明大腸経							
第8回	足の陽明胃経							
第9回	足の太陰脾経							
第10回	手の少陰心経・手の太陽小腸経							
第11回	足の太陽膀胱経							
第12回	足の太陽膀胱経							
第13回	足の少陰腎経・手の厥陰心包経							
第14回	手の少陽三焦経・足の少陽胆経							
第15回	足の少陽胆経・足の厥陰肝経							
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	東洋療法学校協会編:「経絡経穴概論」： 医道の日本社							
参考文献	「ツボ単」:形井秀一、高橋研一監修:(株)NTS 「鍼灸学 経穴編」:東亜出版							
評価基準	期末試験と平常評価から成績評価を行う。							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生体観察			講師名	西村・古田・榎谷	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	鍼灸師にとってランドマークの触知や筋の緊張度をツボの反応として触察することは必須である。これらを正確に実施するために必要な触察技術を実技を中心に学ぶ。					
到達目標	・骨標本を基に立体的な構造を理解し、ランドマーク(骨指標)を正しく触知できる ・起始部・停止部を理解したうえで筋の走行・作用を理解し、人の筋肉を正しく触察できる ・筋電図、心電図などの原理を踏まえ、これらを用いた生理学的現象を理解する。					
回数	講義計画					
第1回	生体観察(骨学実習)					
第2回	生体観察(骨学実習)					
第3回	生体観察(骨学実習)					
第4回	生体観察(骨学実習)					
第5回	生体観察(骨学実習)					
第6回	生体観察(筋学実習)					
第7回	生体観察(筋学実習)					
第8回	生体観察(筋学実習)					
第9回	生体観察(筋学実習)					
第10回	生体観察(筋学実習)					
第11回	生体観察(生理学実習)					
第12回	生体観察(生理学実習)					
第13回	生体観察(生理学実習)					
第14回	生体観察(生理学実習)					
第15回	生体観察(生理学実習)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	出席率、レポートおよび口頭試問により評価する。					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	はり基礎実技1			講師名	榎谷 昌吾	
				実務経験	○	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	鍼灸を専攻する初心者には鍼はどのように刺入するか、基礎的な技術を習得することを目的とする。また、消毒操作、リスク管理(過誤・副作用)の知識を学ぶ。					
到達目標	消毒法ならびに鍼の基本操作について理解し、安全に刺鍼できる。					
回数	講義計画					
第1回	ガイダンス		第16回	体表触知(肩部、頸部、体幹前面)		
第2回	鍼灸理論		第17回	体表触知(体幹後面)		
第3回	鍼の基礎知識、挿管法		第18回	主な反応点の種類		
第4回	撚鍼法、管鍼法		第19回	消毒操作		
第5回	切皮、刺入、抜鍼		第20回	各部の刺鍼(手指部)		
第6回	刺鍼の角度		第21回	各部の刺鍼(手関節部)		
第7回	実技チェック		第22回	各部の刺鍼(前腕前側)		
第8回	手技		第23回	各部の刺鍼(前腕外側)		
第9回	手技		第24回	各部の刺鍼(前腕後側)		
第10回	施術上の注意		第25回	各部の刺鍼(前腕内側)		
第11回	感染症対策		第26回	各部の刺鍼(肘関節部)		
第12回	パームスタンプ		第27回	実技チェック		
第13回	パームスタンプ		第28回	各部の刺鍼(肩部)		
第14回	刺激量、感受性、禁忌		第29回	各部の刺鍼(前胸部)		
第15回	過誤と副作用		第30回	各部の刺鍼(上腹部)		
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	①はりきゅう実技(基礎編):医道の日本社 ②はりきゅう理論:医道の日本社					
参考文献						
評価基準	出席率、実技チェックならびに筆記試験により評価					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	2	単位
科目名	はり基礎実技2			講師名		日開美月・榎谷昌吾		
				実務経験		○		
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床							
講義形態	実技		学期	後期		分野	専門分野	
講義目的	鍼灸臨床において治療機会の多い部位に対して解剖学的な理解を含め、的確に刺激できる技術を身に付ける。							
到達目標	目的とする部位(筋肉)について解剖学的な理解を元に、安全かつ正確に刺鍼できる。							
回数	講義計画							
第1回	各部の刺鍼(中下腹部)			第16回	各部の刺鍼(膝部)			
第2回	各部の刺鍼(中下腹部)			第17回	各部の刺鍼(下腿前面)			
第3回	各部の刺鍼(頸部)			第18回	各部の刺鍼(下腿前面)			
第4回	各部の刺鍼(頸部)			第19回	各部の刺鍼(下腿外側)			
第5回	各部の刺鍼(上中背部)			第20回	各部の刺鍼(下腿外側)			
第6回	各部の刺鍼(上中背部)			第21回	各部の刺鍼(下腿後面)			
第7回	各部の刺鍼(腰部)			第22回	各部の刺鍼(下腿後面)			
第8回	各部の刺鍼(腰部)			第23回	各部の刺鍼(下腿内側)			
第9回	各部の刺鍼(臀部、仙骨部)			第24回	各部の刺鍼(下腿内側)			
第10回	各部の刺鍼(臀部、仙骨部)			第25回	各部の刺鍼(頭部)			
第11回	各部の刺鍼(足指部)			第26回	各部の刺鍼(頭部)			
第12回	各部の刺鍼(足指部)			第27回	各部の刺鍼(顔面部)			
第13回	各部の刺鍼(足関節部)			第28回	各部の刺鍼(顔面部)			
第14回	各部の刺鍼(足関節部)			第29回	まとめ			
第15回	各部の刺鍼(膝部)			第30回	まとめ			
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト	①はりきゅう実技(基礎編):医道の日本社 ②はりきゅう理論:医道の日本社							
参考文献								
評価基準	出席率、実技チェックならびに課題(レポート)により評価							
履修上の注意								
備考								

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	きゅう基礎実技1			講師名	井前 由紀	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	実技: 艾炷をつくる操作の体得、消毒法、一連の施灸の流れ 講義: 灸を行う上で必要な知識・注意事項・過誤や副作用の知識の講義					
到達目標	灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、正しく施灸できる。					
回数	講義計画					
第1回	授業概要、艾炷づくり					
第2回	お灸の歴史、艾炷づくり					
第3回	艾の成分・製造法、艾炷づくり					
第4回	艾の品質・種類					
第5回	実技チェック					
第6回	線香 点火					
第7回	有痕灸 点火(灸温度計使用)					
第8回	無痕灸 八分灸					
第9回	消毒操作、施灸の流れ					
第10回	実技チェック					
第11回	灸の刺激量 八分灸					
第12回	禁忌 八分灸					
第13回	過誤と副作用					
第14回	実技チェック					
第15回	実技チェック					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	①はりきゅう実技(基礎編): 医道の日本社 ②はりきゅう理論: 医道の日本社					
参考文献						
評価基準	2回の実技チェック、課題、学期末筆記試験・実技試験					
履修上の注意						
備考						

講義計画(シラバス)

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	きゅう基礎実技2			講師名	井前 由紀	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	実技: 他人への施術、紙上への施灸によるタイムトライアル、様々な灸法、難しい部位への施灸 講義: 様々な灸法の紹介					
到達目標	灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、人体に対し安全に施灸できる。					
回数	講義計画					
第1回	復習、紙への施灸					
第2回	タオルの使い方 施灸(紙、パートナー)					
第3回	知熱灸					
第4回	棒灸					
第5回	ビワの葉灸					
第6回	隔物灸(みそ、生姜、塩)					
第7回	透熱灸					
第8回	温筒灸					
第9回	MT温灸					
第10回	背部の灸					
第11回	背部の灸					
第12回	柵温灸					
第13回	実技復習					
第14回	実技チェック					
第15回	実技チェック					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	①はりきゅう実技(基礎編): 医道の日本社 ②はりきゅう理論: 医道の日本社					
参考文献						
評価基準	2回の実技チェック、課題、学期末実技試験					
履修上の注意						
備考						

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1	年	単位数	1	単位
科目名	臨床実習1			講師名		学科(古田・西村)		
				実務経験				
実務内容								
講義形態	臨床実習	学期	通年	分野		専門分野		
講義目的	鍼灸臨床において必要な基礎知識・技術を確認しながら施術補助にあたる。 臨床家としてふさわしい態度・姿勢を理解できる。							
到達目標	鍼灸治療の流れを理解、イメージできる。 患者様に対して挨拶や誘導など基本的な対応ができる。							
回数	講義計画							
第1回	附属治療所見学実習							
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回	評価(到達度の確認)							
テキスト								
参考文献								
評価基準	出席(全出席)、レポート課題							
履修上の注意	服装や髪形など臨床にふさわしくない格好の際、実習を中止する。							
備考								

対象学科名	鍼灸	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	総合演習3			講師名	西村・日開	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	演習	学期	通年	分野	専門分野	
講義目的	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。					
到達目標	鍼灸学科の学生として基本的な素養を身につけ、学生として相応しい言動をとれる。					
回数	講義計画					
第1回	文化祭 体育祭 卒業論文発表会 聴講 学校協会学術大会参加 病理解剖 学外セミナー					
第2回						
第3回						
第4回						
第5回						
第6回						
第7回						
第8回						
第9回						
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	出席率、レポート					
履修上の注意						
備考						